

〈参考文献〉

氏家昭夫

「ネパールの仏教儀礼の紹介—Gurumaṅḍalārcaṇapūjāについて」
『密教文化』第39号 1974 pp.85～101。

島 岩

「カトマンドウの仏教寺院」前田恵學編『現代南アジアにおける
仏教を囲む社会的文化的環境の研究』1984 pp.81～100。

「カトマンドウにおけるハーリーティー（鬼子母神）崇拝について」
『東海仏教』第31輯 1985 pp.124～146。

日常供養

名古屋大学助手 森 雅 秀

カトマンドウ市内の寺院をおとずれると、人々が仏像や仏塔に花や米、線香などを供えているシーンによく出会う。これらの人々の多くは一般の信者や参拝者であるが、なかに寺院に住みこんで、毎日欠かさず供物を供えている人たちもいる。堂守りのような役目をするこのような人々はプージャーリとよばれ、彼らが毎日行う儀礼を「日常供養」と言う。

日常供養 (nityapūjā) は文字通りには「常に行われる供養」という意味であるが、寺院内で毎日決まった時刻に本尊などに対してなされる供養を指すことばとして用いられる。日常供養はもともとインドのヒन्दウー教寺院で行われてきたもので、カトマンドウ市内のヒन्दウー教寺院でも見ることができる。

「供養」ということばを聞くと、われわれ日本人は先祖や死者に対して何かささげものをするというイメージを描く。あるいは、そのささげもの自体を指すこともある。しかし、供養 (pūjā) は、インドにおいて古くからもっとも一般的に行われてきた神仏への礼拝方法なのである。

供養の基本形は供養の対象である神仏を丁重にもてなすことにある。ちょうど、われわれが賓客を迎えた時、いろいろな方法で接待を行うように、神仏に対しさまざまなささげものをして喜ば

せるのである。このようなささげもの、すなわち供物には花、灯明、線香、食物などがあり、いずれも客人へのもてなしものである。供養のプロセスのひとつに、神像に牛乳をかけ衣をささげ鏡をさしだすという行為がみられるが、これは牛乳によって沐浴していただいたあと衣装を身につけ、これをご覧になっていただくという接客方法なのである。

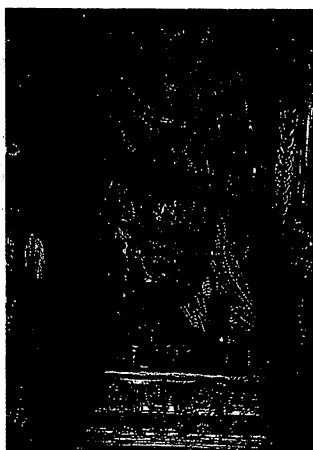
インドでいつごろ供養が始められたかは明らかではない。ヴェーダの祭式のような専門的な知識を必要としないため、ヒンドゥー教、仏教の区別なく、ひろく民衆のあいだで行われてきた。インドでは時代が下がるにつれて、神々を迎え、接待し、さいごに帰っていただくというひとつづきの流れに整えられ、これが16の段階でなされる「十六種供養法」とよばれるものが、ヒンドゥー寺院で一般に行われてきた。

ネパール仏教では、すでに前のページで紹介したグルマンダラ・プージャーと、「十六種供養法」よりはるかに簡単な「五種供養法」のふたつが基本的な供養法となった。五種供養法の五種の供物にはいろいろな組み合わせがあるが、たとえば、花、線香、灯明、シンドゥールという赤い色粉、米がそのひとつである。

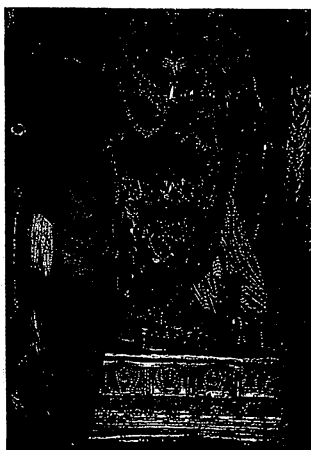
ネパールの仏教寺院で毎日行われている日常供養でも、このふたつの供養法が基本になっている。カトマンドウ市内のある有名な寺院を例にとってみよう。観自在を本尊とするこの寺院は、ヴァジュラーチャールヤ・カースト出身のプージャーリが、ひと月ずつ交替で寺院内にとどまり日常供養を行っている。供養は、明け方、午前十時、正午、午後四時、日没時、午



㊦ 日常供養をおこなうプージャーリ。



㊧ 本尊（観自在）に対するグルマンダラプージャー。線香を供える。



㊨ 灯明を供える。



㊩ 五種供養の供物をのせた供養盆。

後十時の一日六回行われ、所要時間はそれぞれ30分前後である。一回の供養は、本尊の観自在へのグルマンダラ・プージャーを行う前半部と、本堂のまわりにある仏塔ストウーパへ五種供養を行う後半部にわかれる。この寺院の境内には30基以上の仏塔があり、さらに無量光、観自在、文殊などの像がおかれている。プージャーは本堂のまわりを右まわりに移動しながら、これらの仏塔や仏像に五種供養をくりかえす。本尊にはグルマンダラ・プージャー、それ以外には五種供養というように、対象にあわせて供養法の使いわけがある点は興味深い。

〈参考文献〉

ネパール仏教の日常供養のさらに詳しい報告は、森雅秀「ジャナ・バシの日常供養」『Sambhāsā』第10号 1988 pp.71～90 参照。Locke, J.K., Karunamaya, Kathmandu, 1980 も有益である。インドのヒンドゥー教寺院での日常供養については、井狩彌介「南インドのヒンドゥー寺院の構造と儀礼」『仏教芸術』第156号 1984 pp.112～125 参照。十六種供養法については、Tachikawa, M., A Hindu Worship Service in Sixteen Steps — Shodāśa-upacāra-pūjā, Bulletin of the National Museum of Ethnology, 8 (1), pp.104～186 が詳しい。



⑬ ストウーパに対する五種供養。左手に供養盆を持ち、右手で供える。



⑭ ストウーパに対する五種供養。供物の花が見える。



⑮ ストウーパに対する五種供養。シンドウールを供える。



⑯ 境内の観自在像に対する五種供養。

マンダラ——宇宙が舞い降りる——

1990年10月9日 初版発行

定価3,000円(消費税込)検印省略

監修 立川 武蔵

発行者 大矢 泰司

発行所 マンダラ研究会

発売元 株式会社新國民社
東京都渋谷区円山町5番4号

印刷所 泰輝印刷株式会社
東京都板橋区前野町2-18-11

ISBN4-915157-73-3 C0022